

文化財を訪ねて — 見てある記 —

夏の風物詩 桶川祇園祭

昨年来、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全国的に夏祭りやイベントが中止となっており、例年7月15日、16日に中山道を祭り一色に染める「桶川祇園祭」も、令和2年と3年は神事を中心に行われ、神輿の渡御や山車の巡行が中止となりました。そこで、紙上で「桶川祇園祭」を紹介いたします。



神輿の連合渡御

桶川祇園祭は、桶川祇園祭祭典委員会を構成する相生会（相生祭典保存会Ⅱ旧上町）、本街（武州桶川宿本街保存会Ⅱ旧上中町）、榮会（榮町祇園祭実行委員会Ⅱ旧下中町）、八雲会（八雲祭典保存会Ⅱ旧下町）、氷川会（下日出谷保存会Ⅱ下日出

谷）の5つの構成団体によって実施されます。なお、桶川宿の四つの町会では、輪番で祭典委員長を務める「年番長」を選出します。

桶川祇園祭は、元文3年（1738）に桶川宿にあった市神社である天王社の祭礼として始まったと伝えられています。この市神社は明治時代に寿2丁目の稲荷神社に移され、末社八雲神社として祀られています。江戸時代から行われるようになった桶川祇園祭は、桶川宿の隆盛とともに山車や神輿、獅子頭（夫婦獅子）などが整えられました。一時期、中断しましたが、市制施行を契機に桶川の都市祭礼として復活し、発展してきました。

桶川祇園祭は、京都八坂神社の祇園祭と同じように宿場内の疫病退散と家内安全を願う祭りです。例年ですと、この時期には疫病退散の願いを込め、各地の八坂神社、八雲神社などでは「祇園祭」「天王様」が行われます。

【山車】 桶川祇園祭の山車は、大正3年（1914）に中山道に電線が架設され、一変しました。山車人形が電線の接触を避けるため降ろさ

れ、現在のような屋台型の山車になりました。八雲会の山車は、回り舞台形式から固定のものに変わりました。



明治40年頃の祇園祭での写真

【山車人形】 八雲会の山車には、市指定有形民俗文化財の山車人形「神武天皇」が飾られていました。

この山車人形は、明治20年（1887）頃に購入したと伝わり、明治25年と同44年（1911）に大改修が行われています。この神武天皇は2メートル以上ある大ぶりで頭の作風は迫力があります。

榮会の山車には、市指定有形民俗文化財の山車人形の三国志の英雄「関羽」が飾られていました。この山車人形は、明治25年（1892）に幸手市の生人形師によって作られた迫力ある人形で、美術工芸的にも価値の高いものです。生人形とは、物語の登場人物を逼真的に表現した等身大の人形で見世物興行に使われ人気を博しました。

また、本街の山車にもかつては山車人形「天照大神」が飾られていたと伝えられています。

【神輿の渡御】 桶川祇園祭を盛り上げるものとして、各町会の神輿があります。15日には年番町会の神輿を先頭に5基の神輿が中山道を渡御する連合渡御が行われます。16日には桶川駅前交差点で4基の神輿の担ぎ合わせが行われ、各町会の若衆によって激しく神輿が担がれます。また、16日に行われる三つの町会の山車が向かい合って行う囃子と踊りの競演「ひっかせ」は祭を一層盛り上げます。

【夫婦獅子】 桶川宿本街保存会には、寛延2年（1749）制作の夫婦獅子と呼ばれる一対の大きな獅子頭が伝わっています。この獅子頭は、本街の有志によって商売繁盛と家内安全を祈願して舞ったのが始まりといえます。また、江戸時代後期に疫病が流行したため疫病祓いの祈願を行っています。

【桶川祇園祭】 が来年こそは盛大に実施されますことを心から願っております。

桶川市文化財保護審議会委員
板垣時夫